

| | | | | |
|-------------|---------------|----|-----------|------------------------------|
| 事業コード | H29-農-継-12 | | 区 分 | ● 国庫補助 ○ 県単独 |
| 事業名 | 林道事業 | | 部局課室名 | 農林水産部 森林整備課 |
| 事業種別 | 流域育成林整備事業 | | 班 名 | 治山・林道班 (tel) 018-860-1943 |
| 路線名等 | 前沢線 | | 担当課長名 | 櫻田 良弘 |
| 箇所名 | 前沢線(大仙市協和峰吉川) | | 担当者名 | 小林 健太 |
| プランとの 関連 | 政策コード | 02 | 政 策 名 | 国内外に打って出る攻めの農林水産戦略 |
| | 施策コード | 05 | 施 策 名 | 全国最大級の木材総合加工産地づくりの推進 |
| | 指標コード | 01 | 施策目標(指標)名 | 原木の低コスト生産・安定供給に向けた川上対策の充実・強化 |

1. 事業の概要

| | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------|-----------|-------------|----------|----------------|
| 事業期間 | H15 ~ H34 (20年) | 総事業費 | 12.8億円 | 国庫補助率 | 50% | |
| 事業規模 | ○森林管理道 延長8,185m 幅員:4.0m 利用区域面積541ha | | | | | |
| 事業の立案 に至る背景 | ○当該利用区域には豊富なスギ人工林が存在するが、周辺には突っ込み線形や、木材運搬車両が通行できない林道しか存在しないため、間伐等森林整備が十分に行われていない。 ○森林の多面的な機能発揮を目指す森林整備を行うため、高性能林業機械の導入による効率的な作業システムを運用可能な林内の道路網を整備するため、骨格となる林道を開設する。 ○国道や既設林道と連絡線形をとり、林道から枝分かれする作業道の配置による、林内の道路網整備を行い、森林整備が容易となる基盤を整える。 | | | | | |
| 事業目的 | ○公益的機能の確保をより重視した森林整備を推進するための基盤整備 ○木材生産コストの低減のため、森林施業の集約化や機械化を促進するための基盤整備 ○木材資源の循環利用や原木の安定供給のための基盤整備 | | | | | |
| 事業費内訳 事業内容 (単位:千円) | | 計 画 時 | 評 価 時 | 増 減 | 理 由 等 | |
| | 事業費 | 1,400,000 | 1,280,000 | -120,000 | | |
| | 経費 内訳 | 工事費 | 1,400,000 | 1,280,000 | -120,000 | 全体計画延長減に伴う事業費減 |
| | | 用補費 | 0 | 0 | 0 | |
| | | その他 | 0 | 0 | 0 | |
| | 財源 内訳 | 国庫補助 | 700,000 | 640,000 | -60,000 | |
| | | 県 債 | 315,000 | 288,000 | -27,000 | |
| | | その他 | 350,000 | 320,000 | -30,000 | |
| 一般財源 | 35,000 | 32,000 | -3,000 | | | |
| 事業内容 | 幅員4.0m 延長8,500m | 幅員4.0m 延長8,185m | 延長 315m減 | 詳細測量の結果延長の減 | | |
| 事業の進捗 状況 | ○施工済延長(平成28年度末現在)6,837m 全体計画延長の84% ○実施済事業費(平成28年度末現在)924,300千円 全体計画事業費の72% | | | | | |
| 事業推進上 の課題 | ○特になし | | | | | |
| 関連する計 画等 | ○「全国森林計画」による森林整備目標(林道等路網の開設・その他林産物の搬出に関する事項)に基づき「雄物川地域森林計画」に林道整備路線として当該路線が計画されている。 ○雄物川地域森林環境保全整備計画に間伐等森林整備が計画されている。 | | | | | |
| 情勢の変化 及び長期継 続の理由 | ○本格的な利用期を迎えた森林資源の循環利用や原木の安定供給体制の構築による林業の成長化産業化のため、路網整備を先行的に実施することが求められている。 ○京都議定書第2約束期間(2013~2020)の二酸化炭素森林吸収量確保のため、適切な間伐等の森林施業を着実に進めていく必要がある。 | | | | | |
| 事業効率把 握の手法及 び効果 | 指 標 名 | 県全体における林内路網密度 | | | | |
| | 指 標 式 | 林内林道密度=林道延長÷民有林面積 | | | | |
| | 指 標 の 種 類 | ○ 成果指標 ● 業績指標 | 低減指標の有無 | ○ 有 ● 無 | | |
| | 目 標 値 a | 7.3 m/ha | データ等の出典 | 林道事業実績報告 | | |
| | 実 績 値 b | 6.8 m/ha | | | | |
| 達成率 b/a | 93.2 % | 把握の時期 | 平成29年6月 | | | |

| | |
|---------|---|
| 前回評価結果等 | <input checked="" type="radio"/> 選定または継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 保留または中止 |
| | ①指摘事項 <input type="radio"/> 特になし |
| | ②指摘事項への対応 <input type="radio"/> 特になし |

2. 所管課の自己評価

| 観 点 | 評 価 の 内 容 (特 記 事 項) | 評 価 点 |
|---------|--|-------|
| 必 要 性 | <p>○本路線の利用区域の人工林率は57%となっており、森林の適正な維持管理による公益的機能の確保のため、基盤となる基幹的な路網の整備は必要不可欠である。</p> <p>○本格的な利用期を迎えつつある利用区域内の森林資源の循環利用、原木の安定供給の基盤となる基幹的な路網の整備は必要不可欠である。</p> | 10点 |
| 緊 急 性 | <p>○利用区域内のスギ人工林のうち、間伐等の森林施業が必要な4～12齢級の林分の面積は81%を占めており、早急に適正な森林整備を行う必要がある。</p> <p>○雄物川地域森林環境保全整備計画における間伐計画を達成するため、先行的に道路を整備する必要がある。</p> | 15点 |
| 有 効 性 | <p>○残置型型枠、視線誘導標、柵工等木材を利用できる工種のほとんどに間伐材を活用している。</p> <p>○利用区域内における平成16年度～28年度までの間伐実績は213haに達している。平成20年度からの10ヶ年の森林整備計画では達成率を53%としている。</p> <p>○ふるさと秋田元気創造プランにおける平成28年の素材生産量は1,289千m³に達しており、目標値1,100千m³を上回ることに寄与している。</p> | 13点 |
| 効 率 性 | <p>○事業の費用対便益比は1.27である。</p> <p> 総費用 1,510,421千円</p> <p> 総便益 1,919,139千円</p> <p>○今後においても、実施設計、施工段階においてさらにコスト削減に努めていく。</p> | 26点 |
| 熟 度 | <p>○用地関係者からの施工同意を得ており、地元からも早期完成を要望されている。</p> <p>○大山市林道管理規程に基づき、適正に維持管理が行われている。</p> <p>○環境保全への配慮について、全体計画調査において環境調査を行ったほか、施工段階でも十分に配慮している。</p> | 21点 |
| 判 定 | <p>ランク (<input checked="" type="radio"/> I <input type="radio"/> II <input type="radio"/> III)</p> <p>事業判定ランク I となっており、早期の事業完了に向けて継続すべきと考える。</p> | 85点 |
| 総 合 評 価 | <p><input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 中止</p> <p>各観点の評価結果から、事業実施箇所としての優先度が高く、完了に向けて継続することが妥当である。</p> | |

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

| |
|--|
| 既設林道周辺の森林整備を進めるとともに、工事の実施に当たっては一層のコスト削減に努める。 |
|--|

4. 公共事業評価専門委員会意見

| |
|--------------|
| 県の対応方針を可とする。 |
|--------------|

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 林道事業

事業コード(H29-農-継-12)
箇所名 (前沢線 (大仙市協和峰吉川))

1. 評価内訳

| 観点 | 評価項目 細別 | 評価基準 | 配点 | 評価点 | 摘要 |
|---------------|-------------------|--|-------------------|-----|----|
| 必要性 | 資源の成熟度 | | | | |
| | 人工林率 | 人工林率：流域平均値以上 人工林率：流域平均値以下 | 5 3 | 5 | |
| | 社会情勢における必要性 | | | | |
| | 社会経済情勢変化による需要変化 | 需要は増大している 需要に特に変化はない 需要は低下している | 5 3 1 | 5 | |
| | 計 | | 10 | 10 | |
| | 緊急性 | 森林整備状況 | | | |
| 要整備森林の占有度 | | 利用区域の4 齢級以上の蓄積が7 0 %以上 利用区域の4 齢級以上の蓄積が7 0 %未満 | 10 5 | 10 | |
| 他事業との関連 | | | | | |
| 他事業との連携 | | 他事業と連携しており、緊急性が高い 他事業と連携が無く、緊急性も低い | 5 3 | 5 | |
| 計 | | | 15 | 15 | |
| 有効性 | 開設による有効性 | | | | |
| | 間伐材等の活用 | 活用可能な全てに活用 一部使用 使用なし、または、検討中 | 5 3 1 | 3 | |
| | 森林整備計画 | 森林整備計画に対する達成率1 0 0 %以上 森林整備計画に対する達成率8 0 %～1 0 0 %未満 森林整備計画に対する達成率5 0 %～8 0 %未満 森林整備計画に対する達成率5 0 %未満 | 10 7 5 1 | 5 | |
| | 上位計画への貢献度 | | | | |
| | 第2期ふるさと秋田元気創造プラン | プランに関連する事業である プランとは別の個別計画に関連する事業である プラン、個別計画に関連しない事業である | 5 3 0 | 5 | |
| | 計 | | 20 | 13 | |
| | 効率性 | 事業の投資効果 | | | |
| 費用対効果指数 (B/C) | | B/C=1. 0 以上 B/C=1. 0 未満 | 10 0 | 10 | |
| コスト縮減の検討 | | | | | |
| コスト縮減計画 | | 実施している 今後実施する予定で検討中 実施していない | 10 5 0 | 10 | |
| 計画の効率性 | | | | | |
| 設定工期 | | 設定工期内に余裕を持って完成が見込まれる (8 0 %) 設定工期内に完成が見込まれる 設定工期を更に延長する必要がある | 5 3 1 | 1 | |
| 事業費の増減 | | 当初計画事業費以内 3 0 %未満の増加 3 0 %以上の増加 | 5 3 1 | 5 | |
| 計 | | 30 | 26 | | |
| 熟度 | 地元との合意形成の状況 | | | | |
| | 事業関係者、関係機関との協議・調整 | 基本事項が確認済 協議中であるが、特段の問題はない 今後協議する予定 | 5 3 1 | 5 | |
| | 施設の管理体制 | 維持管理費を毎年予算化し、適切に管理している 維持管理費を必要な年のみ予算化し、適切に管理している 維持管理費を予算化していない | 5 3 0 | 3 | |
| | 計画の進捗状況 | | | | |
| | 事業の進捗状況 | 計画より進捗している：進捗率1 0 0 %以上 おおむね計画どおり進捗している：8 0 %～1 0 0 %未満 計画より遅れている：8 0 %未満 | 5 3 1 | 3 | |
| | 今後の進捗見込み | 課題は解決済みで順調な進捗が見込まれる 課題はあるが、当面進捗に影響がない 課題解決が困難である | 5 3 0 | 5 | |
| | 環境との調和への配慮状況 | | | | |
| | 環境保全への配慮 | 十分に配慮されている 配慮について検討している 特に配慮はない | 5 3 0 | 5 | |
| 計 | | 25 | 21 | | |
| 合計 | | | 100 | 85 | |

2. 判定

| ランク | 判定内容 | 配点 | 判定 | 摘要 |
|-----|-----------|-----------------|----|----|
| I | 優先度がかなり高い | 8 0 点以上 | I | |
| II | 優先度が高い | 6 0 点以上～8 0 点未満 | | |
| III | 優先度が低い | 6 0 点未満 | | |